

1. 公益目的事業の実施内容

1-1. 支援プロジェクト

1-1(1) 教育支援

<1> 中学・高校・大学生の奨学金支援

◆連携団体：マリノール（センソック地域に拠点を置くアメリカのNGO）、KKEV（教育支援を行うドイツのNGO）

◆対象地域：カンボジア・センソック地域（プノンペン市郊外）

◆支援額：約50万円（中学・高校生・大学生・職業訓練校生：13名分）

センソック地域（スラム）に暮らす成績優秀だが経済的に学校に通うことが困難な状況にある生徒の学費や教科書、制服、交通費等を支援。2018年度は13名を支援（2名はスカラーペアレンツ制度、2名は大学生奨学金支援制度、残り9名はセカンドハンド・ユースが支援）した。



<2> 学校校舎建設事業

◆連携団体：シャンティ国際ボランティア会

◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州サンパウルーン郡オーカック村 オートウクビル小学校

◆支援額：100万円（2018年度支援額）

カンボジア・バッタンバン州にあるオートウクビル小学校は、タイとの国境にある村で、住民のほとんどがキャッサバやトウモロコシの栽培で生計を立てているが、タイへ仕事を求めて移住したり、出稼ぎに行ったりするケースも多い。旧校舎は老朽化が進み、腐敗した柱はいつ折れてもおかしくないほどであったため、住民からは子どもたちが安全に学ぶことができる校舎の建設が求められていた。校舎は2017年9月に完成。建設総額660万円のうち320万円をセカンドハンドが支援（2018年度は100万円、2017年度は220万円）している。「新しい校舎ができたことで、生徒も保護者も学習意欲が高まり、学業を継続することについて以前よりも前向きな姿勢を見せている。今年卒業する生徒全員が進学を強く望んでいる。」との報告を受けた。



1-1(2) 自立支援

<1> 女性の自立支援事業

◆連携団体：ラチャナハンディクラフトバッタンバン（現地NGO）

◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州

貧しい生活を強いられている女性の経済的自立をめざし、ラチャナハンディクラフトへの運営アドバイスを引き続き行っている。また、2013年度から高松市にある保育園からの委託で保育園制服の製作依頼も行っている。



<2> フェアトレード事業

◆連携団体：ラチャナハンディクラフトバッタンバン（現地NGO）

◆対象地域：カンボジア・バッタンバン州

現地の女性たちが製作した商品を適正な価格で購入し日本で販売することにより、フェアトレード商品の普及を図っている。商品の販売は、チャリティーショップ内だけでなく、セカンドハンド主催イベントへの出品や、県外でも様々なイベントに出店するなど、広くフェアトレード商品を知ってもらう場を提供している。また、県内外問わず、お店を経営されている方々等のご協力を得て、店内に商品を置かせて頂くことで、より多くの方々に商品を手にとてもらえる機会となっている。

《委託販売先》 順不同・敬称略

天勝丸亀店（丸亀市）、和Cafe ぐう（香川郡直島町）、永井敬子（東京都）



1-1(3) 医療支援

2018年度は実施していない。

1-1(4) 孤児院支援

<1> フォスターペアレント制度

◆連携団体：ホームランド孤児院（現地NGO）

◆対象地域：バッタンバン州

◆支援額：約70万円

NGO ホームランド孤児院は、路上で暮らす子どもや虐待を受けた子ども等を保護し、自立もしくは親元に戻れるように、また親戚やカンボジア人の里親の元で生活していくように支援している。セカンドハンドは、日本の里親が孤児院の子どもと手紙のやり取りをして繋がる「フォスターペアレント制度」を通じてホームランド孤児院への支援を行っている。2018年度は、20名の里親が21名の子ども達を支援している。



<2> 保健衛生指導者育成プロジェクト

◆連携団体：香川県立保健医療大学、ホームランド孤児院（現地NGO）

◆対象地域：バッタンバン州

◆支援額：約140万円

2017年9月、基本的な保健衛生に関して適切な指導ができる指導者を育成するための事業を、NGO ホームランドで開始した。この事業は、香川県立保健医療大学と連携し2019年9月までの2か年計画で実施。2018年度は、8月に第3回目となる現地指導ではみがき指導について行い、2019年3月に実施した4回目は、創の手当と目の洗い方についての指導を行った。



1-1(5) 緊急支援

<1> 平成30年7月豪雨災害

◆連携団体：日本赤十字社

◆対象地域：西日本各地

◆支援額：124,475円

7月に発生した西日本における断続的な大雨により、被災された方々を支援するため、店頭に募金箱を設置し、支援金を募った。集まったお金は、日本赤十字社を通し、被災された方々に届けられた。

<2> グアテマラ共和国 フエゴ火山噴火災害

◆連携団体：グアテマラ青少年の会

◆対象地域：グアテマラ共和国

◆支援額：59,764円

6月3日に中米グアテマラ共和国のフエゴ火山が噴火し、多くの被害が出た。セカンドハンドでは日本国内で支援金を募り、グアテマラ青少年の会と連携し、避難所生活に必要な物品(右表参照)を支援した。

購入した支援物資		数
シャンプー (24×10ml)	10個	
固体石鹼 (小)	12個入×36箱	
固体石鹼 (大)	4個	
学習用ノート	100冊	
飲用水ウォータージャグ	11台	
鉛筆	1ダース×5箱	
鉛筆削り	1個	

<3> 北海道胆振東部地震

◆連携団体：日本赤十字社

◆対象地域：北海道胆振地方中東部

◆支援額：16,941円

9月6日に発生した北海道胆振東部地震により被災された方々を支援するため、店頭に募金箱を設置し、支援金を募った。集まったお金は、日本赤十字社を通し、被災された方々に届けられた。

1-2. 支援先視察・交流事業

1-2(1) 事業調整者による現地視察

セカンドハンドは支援先のカンボジアに事務所を置かず、現地団体と連携し支援活動を行うスタイルを取っているため、必要に応じて支援先の視察・訪問を行っている。2018年度は、奨学金支援、孤児院支援、自立支援について、現場でのニーズや支援成果を確認するため職員を2度カンボジアに派遣した。

1-2(2) 支援者と支援先関係者との交流

9月に実施した視察渡航には、孤児院支援でフォスターペアレントをされている方、長年ボランティアスタッフとしてセカンドハンドを支えてくださっている方の2名が同行し、カンボジアの置かれている状況を理解してもらう機会となった。



1-3. 人材育成事業

1-3(1) セカンドハンド・ユースのサポート

香川県内で、社会を良くするために何かしたいと活動する学生たちに、活動の場の提供や活動のサポート等を行っている。2018年度は、募金活動とイベント収入で 209,299円を集め、貧困のため学校に通い続けることができない中・高校生 7名と、ユースの支援で高校を卒業し新たに職業訓練校に通うことになった学生 2名の奨学金支援を行った。



1-3(2) ボランティア体験・インターン受入

学校などからの要請を受け、小～大学生や社会人等のボランティア体験、インターンの受入を行っている。国際協力、ボランティア活動、職場体験など様々な学習テーマに合わせたプログラムを作成し対応した。様々な国際協力に繋がる活動を体験し、学ぶ機会となっている。

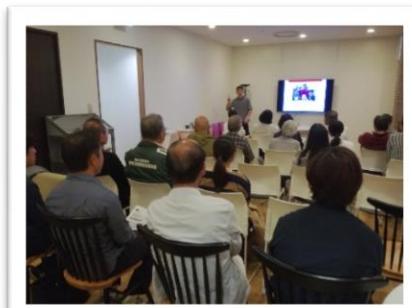
《2018年度の主な学校》 順不同・敬称略

高松大学、三木高校、高松北中学校、木太中学校、紫雲中学校、三木中学校、山田中学校、勝賀中学校、香川大学教育学部付属高松中学校、穴吹医療大学校、穴吹ビジネスカレッジ、KTC おおぞら高等学院



1-4. 観察・調査受入れ事業

2018年度は、日本チャリティーショップネットワークからの観察団(東京、神奈川、名古屋より 7名)を松縄店で受け入れた。



1-5. 講演・講座事業

<1> 主催講演会・講座

2018年度は支援報告や観察渡航報告など、計 3回開催した。全て一般公開で、初めての人も興味をもって参加できる内容となった。



<2> 講師派遣

2018年度は計 18回の講師派遣を行った。2018年度後期(2018年10月～2019年3月)は JICA 国際協力出前講座を受託し、講師を派遣した。講義後にボランティアとしてセカンドハンドのイベント等に参加する学生も多数見られた。

《依頼元》 順不同・敬称略

高松大学、多度津ユネスコ協会、JICA 四国、山田中学校、松山市立たちはな小学校、香川大学、香川環境福祉学会、高松北中学校、高松商業高校定時制課程、高知県立室戸高校、香川県立農業大学校、さぬきこどもの国、大洲市立喜多小学校、松山国際交流協会

※香川大学(11/30実施)は、「公 1-5(1) 国際協力論」に該当

1-6. 広報事業

＜1＞イベント開催

広くセカンドハンドについて知ってもらうため、主催バザーやイベント出店を行った（計 15 回）。収益は、合計 506,840 円。



＜2＞セカンドハンド通信発行

年間 4 回発行する広報誌。全国の支援者や希望者に無料発送するだけでなく、ホームページでの公開、様々な施設において配布している。支援先の現状や支援の進行状況の報告などに加え、国際理解、市民活動、ボランティア、人材育成など様々なテーマを取り上げ、読者が幅広い視点で国際協力活動を捉えられるとともに、身近に感じられる様な内容にしている。

特集		発行日	発行部数
92号	孤児院支援 保健衛生指導者育成プロジェクト	2018/04/23	5,000部
93号	セカンドハンド松縄店	2018/07/23	1,000部
94号	孤児院支援 フォスター・ペアレント制度	2018/10/29	5,000部
95号	お店番ボランティア紹介	2019/01/01	1,000部

＜3＞ウェブサイト、ソーシャルメディア（ブログ、Facebook、インスタグラム）

ブログ、Facebook、インスタグラムでは、活動内容、支援の状況や報告をタイムリーに更新している。

〈4〉報道関係

《新聞揭載》

- | | | |
|------------|--------|-----------------------------------|
| 2018/04/20 | 読売新聞 | 笑ってチャリティー（セカンドハンド・ユース） |
| 2018/05/26 | リビング新聞 | フェアトレード カンボジアの女性の丁寧な手仕事 《掲載記事：左下》 |
| 2018/06/21 | 読売新聞 | お買い物情報(フェアトレード商品) 《掲載記事：右下》 |
| 2018/06/28 | 読売新聞 | 団体紹介「収益でカンボジア支援」 |

カンボジアの女性の 丁寧な手仕事



カラフルな商品が並ぶ松縄店の
フェアトレードコーナー

セカンドハンド
松縄店

カンボジアの内戦で夫を亡くした女性や、貧困地域の女性の自立支援の一環として、1994からフェアトレードの活動をスタート。現地で技術指導をしたり、作業場を建設したり、約3年間の準備期間を経て商品化されたのが、カンボジアの伝統的な手織り布を使ったフェアトレード製品です。バッグの配色や財布のデザインなど、細かい部分まで日本向けに考えられたオリジナル仕様の各種製品は、使いやすさもバツチ。高松店、片原町店でも取り扱いあり。

高松市松縄町37-5
☎080(4999)0494
△営：午前11時～午後7時
(土・日曜・祝日は～午後6時)
△休：木曜

ワインバッグ(2000円)、ミニボケット(1200円)




1-7. チャリティーショップ定着・3R促進事業

チャリティーショップは、活動の支援金を集めただけなく、ボランティアとしての参加、品物の提供、お買い物など、「社会に対して何かしたい」と思う人にとって様々な関わり方ができる場である。また、地域の人々が活躍できる場、気軽に国際協力の情報にアクセスできる場など、さまざまな役割を担っており、いつでも、誰もが気軽に立ち寄れる国際協力の玄関口として市民に確実に根付いている。

<1> 高松店

支援先やセカンドハンドの活動が見えるお店作りの工夫を随所で行っている。その結果、常連客でも店内の映像や掲示物の内容について話をするようになるなど、買い物客の意識が変化してきている。

<2> 片原町店

高松店と同様に支援先と活動が見える工夫を行った。また、商店街という好立地にあるお店ということで、新規顧客が入りやすいお店作りを意識し、什器およびレイアウトの変更を行った。

<3> 松縄店

店内スペースを活かし、チャリティーアイベントの会場として活用した。イベント開催時には、より多くの人に足を運んでもらうことができ、セカンドハンドの活動をPRすることができた。オープンから1年が経ったが、新規ボランティアが定着していないことが課題である。また、松縄店でチャリティーアイベントを開催した。

高松店		片原町店	松縄店
2018年度	¥ 2,701,095	¥ 8,138,980	¥ 1,240,600
2017年度	¥ 2,737,560	¥ 8,486,570	¥ 690,613
2016年度	¥ 3,389,720	¥ 8,608,330	-

※松縄店オープン：2017年12月

1-8. チャリティーアイベント開催事業

外部講師の協力を得てイベントを開催し、市民が文化を通じて国際協力に参加できる機会を提供している。2018年度は松縄店でチャリティーアイベントを開催した。収益は、合計6,150円。

日程	イベント名	会場	収益
2018/06/23	クリスタルボウル演奏会	松縄店 2階	¥ 6,000
2018/07/22, 28	スイーツデコでオリジナル貯金箱を作ろう！	松縄店 1階	¥ 100
2018/11/24	フルーツリースを作ろう♪	松縄店 1階	¥ 50

2. 法人の管理運営に関する事項

■ボランティア

2018年度は約60名(ボランティア登録者)の方々にご協力いただき、お店の運営やイベント出店を行った。ボランティアスタッフとのコミュニケーションを図るため、ミーティング(わいわい会)と交流会を開催。わいわい会ではレイアウト変更などのチャリティーショップに関することや、チャリティーイベントについての意見交換を行った。



日程	イベント名	会場
2018/06/03	ボランティア交流会	瓦町 FLAG 11階ビアガーデン
2018/12/22	わいわい会	本部4階
2018/12/22	忘年会	本部4階
2019/02/09	わいわい会	セカンドハンド片原町店
2019/03/31	花見	アイパル香川

3.関連する団体の事業内容

■セカンドハンド北海道

イベント出店の収益金寄付などを通じてサポート。

《セカンドハンド通信 93号より》

6月24日「フェアトレードフェスタ2018 in さっぽろ」に出店しました。あいにくの曇り空で気温も上がらず、使い捨てカイロで暖を取りながらの出店でした。元ボランティアの方、研修中の合間に立ち寄ってくれた方、カンボジアで教育支援を行っている団体と協力して自分たちで商品開発を企画している市内の女子高校生など、今年も嬉しい再会と出会いがありました。



《セカンドハンド通信 94号より》

9月6日未明に発生した北海道胆振東部地震ではご心配をおかけしましたが、おかげさまでボランティアスタッフは全員無事でした。200万都市の札幌で都市機能が麻痺するという経験をし、水も電気も舗装道路もない環境でも知恵を働かせ、たくましく暮らすカンボジアの農村部の人々を思い、「本当の豊かさ」とは何だろう、と考えさせられました。

《セカンドハンド通信 96号より》

12月15日、札幌駅前地下歩行空間で行われた「北海道国際協力フェスタ」に参加し、カンボジア商品の販売を行いました。近年フェスタでは国連のSDGs（持続可能な開発目標）の啓発に取り組んでおり、テーマ「わたしたちがSDGsです」に沿って17の目標に関連するクイズラリー、写真撮影用パネルや、SDGsソングの演奏で来場者にSDGsをアピールしていました。セカンドハンド北海道もささやかながら「誰ひとり置き去りにしない」社会の実現を目指して、これからも地道に活動を続けていきたいと思います。

■セカンドハンド関東

イベント出店の収益金寄付などを通じてサポート。

■セカンドハンド大阪

事務局への経理面でのアドバイス、決算書や申告書の作成などをサポート。

■四国 NGO ネットワーク(SNN)

四国内の国際協力NGOが相互につながりながら市民参加による国際協力活動の広がりを目指すもの。研修会やJICA四国とのラウンドテーブルへ参加した。「四国フェアトレード商品開発研修」では、各団体が取り組むフェアトレード事業について意見交換を行った。



■日本チャリティーショップネットワーク(JCSN)

全国のチャリティーショップ運営団体で構成された、国内でのさらなる定着を目指したネットワーク団体。12月3日に東京で開催された日本チャリティーショップ・ネットワーク(JCSN)のフォーラムに、職員とボランティア1名で参加。全国各地でチャリティーショップを運営する方々総勢80名が集い、チャリティーショップが市民の皆様から共感を得るためのヒントについて学んだ。ネットでの販売やガラス食器や羽毛製品のリサイクルについての事例を知ることができ、普段なかなか接すことのない他団体の方との交流の機会にもなった。

